スポーツ健康科学紀要

第14号

東洋大学

東洋大学スポーツ健康科学紀要編集委員会規程

（目的）

第１条　この規程は，東洋大学スポーツ健康科学委員会が発行する「東洋大学スポーツ健康科学紀要」（以下「紀要」という）の編集及び発行について必要な事項を定めることを目的とする。

（編集委員会）

第２条　「紀要」の編集，発行，その他「紀要」に関する事項を処理するため「東洋大学スポーツ健康科学紀要編集委員会」（以下「委員会」という）を設置する。

（委員）

第３条　委員会は，次の者をもって構成する。

⑴　スポーツ健康科学白山キャンパス研究室室員

⑵　スポーツ健康科学川越キャンパス研究室室員

⑶　スポーツ健康科学板倉キャンパス研究室室員

委員の任期は２年とし，再任を妨げない。

（委員長および副委員長）

第４条　委員会に委員長１名及び副委員長１名を置く。

⑴　委員長および副委員長の選出は，委員の互選による。

⑵　委員長は，委員会の会務を総括する。

⑶　委員長は，必要に応じ委員会を招集し，その議長となる。

⑷　委員長に事故あるときは，副委員長が代行する。

（審議決定事項）

第５条　委員会は，次の事項を審議，決定する。

⑴「紀要」の編集に関する事項

⑵「紀要」の発行に関する事項

⑶　その他，委員会が必要と認めた事項

前項以外の投稿・執筆に関する事項は，別に定める。

（会議）

第６条　委員会は，委員の３分の２以上の出席がなければ会議を開くことができない。会議の議事は，出席委員の過半数で決定し，議長は採決に加わらないものとする。また前項で可否同数の場合は，議長の決するところによる。

（改正）

第７条　この規程の改正は，東洋大学スポーツ健康科学委員会の議を経て，スポーツ健康科学委員会委員長が行う。

附　則

この規程は，平成20年11月15日から施行する。

附　則

この規程は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

東洋大学スポーツ健康科学紀要投稿規程

（目的）

第１条　「東洋大学スポーツ健康科学紀要」に投稿する者は，この規程の定めるところによる。

（投稿資格）

第２条　執筆者は，原則として以下の者にする。

⑴　東洋大学スポーツ健康科学白山キャンパス研究室室員。

⑵　東洋大学スポーツ健康科学川越キャンパス研究室室員。

⑶　東洋大学スポーツ健康科学板倉キャンパス研究室室員。

⑷　教養教育のスポーツ健康分野科目の授業を担当する非常勤講師（兼担を含む）。

（申込及び締め切り）

第３条　執筆申込及び原稿提出締め切りは，年１回発行の場合，次の各号の通りとし，年２回発行の場合は，その都度別に定める。

⑴　執筆申込は，別に定める「スポーツ健康科学紀要執筆申込書」を提出する。

⑵　原稿の提出締め切りは，編集委員会により決定する。

⑶　上記⑴，⑵の提出先は，委員長とする。

（原稿の種類）

第４条　この「紀要」に投稿できる原稿の種類は，論文・総説・資料・研究ノート・研究活動報告などとする。

（タイトル）

第５条　投稿する原稿は，和文または欧文とし，和文原稿には欧文タイトル，欧文原稿には和文タイトルを付す。

（摘要）

第６条　投稿する原稿には，摘要（タイトル・執筆者氏名とも）をつけることとする。

⑴　和文原稿の場合は外国文による摘要，外国原稿の場合は和文による摘要とする。

⑵　分量は，紀要１ページ以内とする。

⑶　掲載場所は，各原稿の最初とする。

（別刷）

第７条　別刷は，論文１篇につき50部とする。ただし，それ以上を希望する者は，原稿提出時50部を単位として別に申し込むものとする。

（著作権）

第８条　掲載された論文の著作者は，当該論文に関する複製及び公衆送信を委員会に対して許諾したものとみなす。委員会が複製及び公衆送信を第３者に委託した場合も同様とする。

（改正）

第９条　この規程の改正は，東洋大学スポーツ健康科学委員会の議を経て，スポーツ健康科学委員会委員長が行う。

附　則

この規程は，平成20年11月５日から施行する。

附　則

この規程は，平成24年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成27年４月１日から施行する。

「スポーツ健康科学（白山キャンパス）研究室」スタッフ一覧

専任教員

【経済学部】

塩田　徹，角南俊介

【経営学部】

西村　忍，安則貴香

【法学部】

金田英子，谷釜尋徳，土江寛裕，平井伯昌

非常勤講師

川井　明，今野　亮，須田和也，田代浩二，番場裕之

「スポーツ健康科学（川越キャンパス）研究室」スタッフ一覧

専任教員

【理工学部】

一川大輔，山崎享子

非常勤講師

大橋信行，小川貴志子，奥田功夫，重藤誠市郎，長澤純一，藤城仁音，山下大地

「スポーツ健康科学（板倉キャンパス）研究室」スタッフ一覧

【食環境科学部】

大上安奈，高橋珠実

非常勤講師

新井淑弘，高橋　進，野間明紀，横矢勇一

◆執筆者（筆頭著者）一覧◆

1．谷釜　尋徳（タニガマ・ヒロノリ／法学部法律学科）
2．角南　俊介（スナミ・シュンスケ／経済学部経済学科）
3．塩田　　徹（シオダ・トオル／経済学部総合政策学科）
4．西村　　忍（ニシムラ・シノブ／経営学部マーケティング学科）
5．田代　浩二（タシロ・コウジ／法学部非常勤講師）

◆編集後記◆

今年度も滞りなく『スポーツ健康科学紀要』（14号）が発刊の運びとなりました。関係各位のご尽力に対し，この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2016年夏，リオデジャネイロでオリンピック・パラリンピックが開催されました。オリンピックには過去最大規模の東洋大学関係者（現役学生・卒業生）が選手として出場しています。とりわけ，競泳の萩野公介選手（文学部４年）・陸上短距離の桐生祥秀選手（法学部３年）のメダル獲得は，地球の裏側で声援を送る私たちに深い感動を与えてくれました。

一方，世界史の節目となる出来事も数多く起こりました。イギリスのEU離脱やトランプ氏のアメリカ大統領就任などは，長らく世界の合言葉であった「グローバル化」の揺り戻しによる自国保護主義の台頭の兆しと見る向きもあります。いままさに，世界は混迷の時代に突入しました。

３年後に迫った東京五輪も，こうした世相と無関係ではいられません。オリンピックの浮沈は，その時々の世界情勢に大きく左右されてきたからです。「近代オリンピックの父」であるクーベルタン男爵は，オリンピックの理想像をスポーツによる人間教育・国際交流・世界平和に求めました。いかに世の中が変わろうとも，この「オリンピズム」は普遍の原則でなければなりません。

学術研究においては「人工知能（AI）」が話題をさらっています。AIとインターネットなど情報通信技術やロボット技術を組み合わせた技術革新の波は，「第４次産業革命」と称されるようにもなりました。今後，AIはスポーツ界に功罪両面でどのような影響を及ぼすのでしょうか。スポーツ科学を構成する諸領域の研究対象は，兎にも角にも「人間の運動」に帰結します。AIがスポーツを「支配」する日がそう遠くないと覚悟するならば，「人間に特有の（AIにはない）能力とは何か？」をスポーツ現象の範囲でつきとめることは喫緊の課題であるといわねばなりません。

本誌『スポーツ健康科学紀要』は，現在，学内で唯一のスポーツ専門学術誌として，こうしたスポーツ科学・健康科学にまつわる諸問題の解明に微力ながら貢献したいものです。

（谷釜　記）

2016年度「スポーツ健康科学紀要」編集委員
委員長　谷釜　尋徳（法学部）
委　員　塩田　　徹（経済学部）
委　員　金田　英子（法学部）
委　員　西村　　忍（経営学部）
委　員　一川　大輔（理工学部）

スポーツ健康科学紀要　第 14 号

2017 年 3 月 13 日　印刷
2017 年 3 月 14 日　発行

編集兼発行人　東洋大学スポーツ健康科学委員会
東京都文京区白山 5 丁目 28 番 20 号

制　　作　蔦友印刷株式会社
東京都文京区白山 1 丁目 13 番 8 号
電話 03(3811)5343

ISSN : 1346-1087

JOURNAL OF SPORT AND HEALTH SCIENCE

No. 14 March, 2017

CONTENTS

Articles

The use of staves and techniques of the body on thoroughfares in the late modern period ····· TANIGAMA Hironori (1～17)

The effect of the exercise program for the preschool children with making a forward roll movement ····· SUNAMI Shunsuke (19～23)

The effectiveness of barefoot running to the running pattern correction ····· SHIODA Toru (25～34)

Medical history of burner syndrome in American football college athletes and abnormal findings in neck MRI and X-ray ····· NISHIMURA Shinobu (35～45)

Think over a significance of "P.E. of university" : A personal viewpoint through "Adventure" in P.E. of my own ····· TASHIRO Koji (47～54)

Lecture reports

Doping and Anti-doping in high-performance sport : A historical overview ····· Reported by TANIGAMA Hironori, OGAWA Shota SAKANAKA Yusuke Lecture by Dr. Emanuel Hübner (55～62)

What you can do for the Olympics and what the Olympics can do for you ····· Reported by TANIGAMA Hironori Lecture by Dusty Amroliwala (63～68)

Published by
TOYO UNIVERSITY
28-20, Hakusan 5-chome, Bunkyo-ku,
Tokyo, Japan

TOYO UNIVERSITY

スポーツ健康科学紀要

第十四号

東洋大学

ISSN : 1346-1087

スポーツ健康科学紀要

第14号

目　次

論　文

近世後期の街道筋における棒の用途と身体技法 ····· 谷釜　尋徳（1～17）

未就学児童の前転動作に対する運動プログラムの影響 ····· 角南　俊介（19～23）

ランニングフォーム矯正の一手段としてのベアフットランニング活用の可能性 ····· 塩田　徹（25～34）

大学アメリカンフットボール選手のバーナー症候群既往歴と頚部画像所見との関係について ····· 西村　忍（35～45）

「大学体育」の意義を考える —授業実践の一見地から— ····· 田代　浩二（47～54）

講演会報告

オリンピック大会におけるドーピングの歴史 ····· 報告者　谷釜　尋徳・尾川　翔大・坂中　勇亮 講演者　エマヌエル　フーブナー（55～62）

オリンピックのために何ができるのか？ オリンピックは私たちに何をもたらしてくれるのか？ ····· 報告者　谷釜　尋徳 講演者　ダスティ　アムロリワラ（63～68）

東　洋　大　学

2017年3月

東洋大学